大きくなったら何になる？ volume 51

通訳者編

言葉が異なる国際舞台で、
中立に、迅速に、誠意を込めて、
お互いの意志を伝える仕事です。

〈取得資格〉
通訳案内士（英語）国家資格取得
国内旅行業務取扱管理者　国家資格取得
日本翻訳連盟・科学技術翻訳士　認定
総合旅行業務旅程管理者（国内外旅行の添乗員資格）
福岡通訳協会役員 など

通訳、翻訳の仕事は、人類の歴史とともにあり

人は自分の思いや考えを言葉や文字などで、相手に伝えることができます。世界には、6000語以上もの言葉があるそうです。話し手が何億人もいる場合もあれば、数人でしか話されない言葉もあります。ただ、公用語や国家語として用いられる言葉は、100にも満たないそうです。人類がいつから言葉を使うようになったのかは、分かりませんが、言葉を記す文字は、5000年以上も前からありました。

そういった異なる言葉を持つ民族や国家が理解し合うためには、お互いの言葉を知り、情報のやりとりを助ける人が必要でした。通訳者、翻訳者は、そういう言葉の架け橋を仕事とする人です。

言葉一つで、人をつなぎ、モノづくりの海外進出を支える

福岡市内に「みずトランスコーポレーション」という会社を構える水谷みずほさんは、英語専門の通訳者、翻訳者として活躍しています。会社は英語のほか、フランス語、中国語、韓国語など、さまざまな言語にも対応しています。

水谷さんの得意分野は、「日本のモノづくり現場」だそうです。工業、機械を中心とした製造業全般、食品製造、農業、環境などの分野の会議、商談、査察、取材、講義、ガイド、司会など、さまざまなシーンで活躍しています。

さらに、ユニークなのは自ら旅行業の資格を取り、オーダーメイドのツアーを外国人向けに企画していることです。日本人が勧める観光名所ではなく、陶器の窯元や酒蔵、お茶の生産農家などを訪れ、自ら体験したり、地元の人と触れあったりできるツアーを企画しています。

また、ウェブサイトを制作し、外国人の視点からみた日本のよさを伝えたり、九州の酒造メーカーや八女茶の海外進出のためのPR活動を手伝ったりもしています。「欧米人は、商品の背後にある歴史や伝統、どんな人がつくっているのか、そんなストーリーが知りたいのです」。そこを理解すれば、海外からどんどん注文が入るのだといいます。

生涯やり続けられる仕事を求めて

水谷さんは、トランスレーション（翻訳）とクリエーション（創造）を併せた造語「トランスクリエーション」が仕事だと微笑みます。単なる通訳や翻訳の世界を超えて、日本と海外を結びつける仕掛け人のような活動でしょうか。

水谷さんが、今の仕事を目指したのは、九州大学の4年生ごろ。卒業後、同大学の応用力学研究所の秘書を務めながら、通訳の専門学校に通いました。「生涯、続けられる仕事がしたかったから」と…。

そのつぼみは、すでに幼いころに芽吹いていました。船舶の研究者であった、お父さんのアメリカ赴任について行き、3歳で自然と英語を話していたそうです。中学、高校時代には、お父さんの国際会議に同伴し、17歳の時には、交換留学生としてアメリカに2ヶ月間、滞在した経験もあります。

応用力学研究所では、3年間に20もの国際会議の運営を手伝いました。その後、グランド・ハイアットという外資系ホテルで、秘書・通訳をやったことも大きな経験になりました。海外スタッフのサポートや社内文書の翻訳など、すさまじい仕事量の中で、案件を処理するスピード感を養っていったそうです。

やがて、退職してフリーランスの道を選んだ水谷さんに、技術系の翻訳の仕事が入りました。専門辞書や技術用語集を片手に奮闘し、徐々に仕事の幅を広げていきました。

水谷　みずほ さん

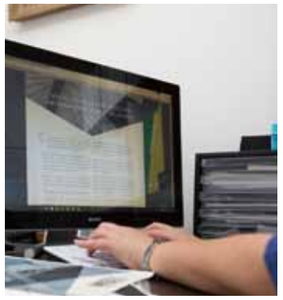
1970年　福岡県福岡市生まれ
1988年　福岡県立筑紫丘高等学校　卒業
1992年　九州大学文学部史学科（現・人文学科）地理学専攻 卒業
1992年　九州大学応用力学研究所 船舶安全性部門秘書
1996年　グランド・ハイアット福岡株式会社 人事部 通訳秘書
1998年　フリーランスの通訳・翻訳者へ
2015年　合同会社 みずトランスコーポレーションを設立
http://mizu-trans.jp/

言葉の真意を汲み取り誠実に伝える大切さ

ある日、アメリカ食品医薬品局（FDA）の査察に同行した水谷さんは、通訳者の責任の重さを痛感したそうです。アメリカに輸出する食品が、先方の基準に合うかどうかをチェックするのですが、単語一つでも間違えると、○が×になってしまいます。専門用語も多く、主語がはっきりしない日本語の言い回しに苦慮しながら、すぐに返答しなければいけません。「素早く、誠実に相手に伝えること。さらに笑顔や態度、挨拶など、語学力よりも大切なことがたくさんあります」。会議や商談がうまくいくかどうかは、通訳者しだいということもあるのです。

心が通いあうこと それが仕事のやりがい

「英語が自分のフィルターを通して日本語となって伝わり、聞いている人が涙を流されるのを見たとき、通訳者冥利に尽きると思いました」と、笑顔を輝かせる水谷さん。チームの一員として、会議や商談が前向きに進んだ時の喜びは格別なものがあるそうです。



人の前で話す度胸をつけ、まず、正しい日本語を学ぼう

最後に、水谷さんからみなさんにメッセージをもらいました。「人前で話す機会をどんどん増やしてください。話すスピードや話し方、態度にも気をつけて」。また、通訳者でも正しい日本語を知らない人が多いそうです。まずは、正しい日本語を。それを学ぶには？「NHKニュースを、視てください」。なるほど、一番、正確な日本語を学べますね。通訳に限らず、人前で意見を述べることは、どんな業界でも求められます。大勢の人の前で話す経験を積んでいけば、将来、きっと役立つはずです。

写真上／広島県上下町にて。外国人着物モニターツアーで通訳担当。　中／福岡県の酒の海外展開ワークショップにてメモを取りながら通訳。
下／陶器の里小石原にて。アメリカ人を大型バスでガイド。